

(様式2)

*Streptococcus uberis*によるバルク乳の細菌数増加事例と管内での分離状況

：長野県飯田家保 坂本英優

1 令和3年3月上旬、搾乳牛56頭を飼養する酪農家に  
2 おいてバルク乳の細菌数増加(51万/ml)事例が発生。  
3 バルク乳から環境性レンサ球菌が多数(>1万CFU/ml)  
4 分離されたため、乳房炎牛の存在を疑い全頭個体乳検  
5 査を実施。その結果、1頭から *Streptococcus uberis*  
6 (SU)を多数(>1万CFU/ml)分離。当該牛治療中の  
7 4月上旬の乳質評価検査で細菌数が減少(6万/ml)し  
8 たことから、原因をSU感染乳房炎によるものと特定。  
9 これを受け、酪農生産性向上対策事業に係るバルク乳  
10 検査に併せ、管内のSU浸潤状況を調査。33戸のうち  
11 前期3戸、後期7戸でSUを分離。SUは難治性乳房炎  
12 を引き起こすため、早期発見と予防が重要となること  
13 から、広報による啓発を実施。感染牛の特定、飼養環  
14 境及び搾乳衛生の改善指導を行うことで、SUによる難  
15 治性乳房炎を減少させ、管内酪農家の生産性向上につ  
16 なげたい。